

はじめに

学校長 戸部 秀之

全国の附属学校園がこれまで大きな力を傾けて研究を繰り広げ、全国にその成果を発信してきました。本校でも、時代を先取りしたテーマを設定し、総力を結集して学校研究に取り組み、実践に落とし込む努力を続けてきました。これまで、特別支援教育における新たな提案として一定の成果を上げてきたと思います。

ところで、文部科学省は、平成 29 年 8 月に「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて一国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」を取りまとめました。この報告書は、今後のわが国の国立教員養成大学・学部、大学院の在り方に大変重要な意味をもっており、附属学校園に対しても、これまでに経験のない大きな改革を求めています。この報告書は、全国の附属学校園の役割として、地域に共通する本質的な課題の解決を志向する「地域の公立学校のモデル校」としての役割を明確に示しています。

このような附属学校に求められる役割を踏まえ、本校では今年度、学校改革の取り組みとして、「しいの木ハッピーターン・プロジェクト」を進めて参りました。プロジェクトの大きな柱は、①本校の使命の明確化、②長時間勤務の是正と業務の精選、③学校研究の工夫です。

本校では、例年、学校研究テーマに沿った研究を進め、研究協議会を開催して、その成果を発信してきました。今年度は新たな取り組みとして、これまでとは少し形を変え「公開授業研究会」として開催させていただきました。本校が大切にしている「一人一人が力を発揮し、活躍する授業づくり」に向けて、各教員が授業という事実を通して、教育の新たな可能性を提案し、それをもとに参観された先生方が心おきなく議論できる研究会を目指しました。

ご参会の方々に、「附属の授業は参考になる」、「授業についてたくさん語り合えた」と感じていただけたなら、この上ない喜びです。

結びにあたり、本集録の発行にあたって多くの方々にご助言を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。また、本校の教育活動をともに支えて下さる保護者の皆さま、地域の皆さま、そして児童生徒の皆さんに、心より感謝の気持ちを表したいと思います。

小学部について

1 教育課程について

学部教育目標

一人一人の実態にあった適切な教育を行い、心身の調和的発達を促して、さまざまな活動に興味・関心をもって進んで取り組む児童の育成を図る。

小学部の児童は、経験の少なさから興味・関心の幅が狭い傾向がみられる。しかしそれは、発達の大きな可能性を有していることであり、小学部では教育活動の積極的な展開が求められる。

教員は、子どもの障害や発達の状態を的確に把握し、発達上、生活上の課題を克服していく教育活動を、計画的に実践することが重要である。また、子どもの「よさ」である好きなことや得意なことを活かしながら、その子がもつ、よい面を伸ばす学習活動を組み立てる視点が大切である。それは、小学部の児童が活動に生き生きと取り組み、もてる力を最大限に発揮する上で必要な要素だからである。また、成功経験を積み重ねて自己肯定感を高めることが、将来を豊かに生きる力を育むために必要である。

したがって小学部では、児童がその興味・関心に基づきながら伸び伸びと遊んだり、学習や運動に生き生きと取り組んだりする活動の中に、教員は意図的に学習活動を組み込んでいく。そして、様々な事象に興味・関心をもつことができる心、健康でしなやかな体、身辺処理に取り組む意欲と能力、周囲の人と共に楽しく生活するための基礎的な態度等を、着実に育んでいく。



小学部では興味・関心が大切ということを押さえて、授業づくりや指導の手立て等を考えていく。

日課

小学部 1 組の日課表

時限	時間	月	火	水	木	金	
	8：50	登 校 日常生活の指導					
	9：40	(荷物整理・着替え・係の仕事・自由遊び・朝の会)					
1		全校朝会	リズム運動			合同 (体育/音楽)	
	10：10	日常生活の指導 (自由遊び)					
	10：30						
2		学部朝会	生活/音楽/図工/体育/おべんきょうタイム				
	11：10	日常生活の指導 (自由遊び)					
	11：20	生活/音楽/図工/体育					
3							
	12：00	給 食					
	12：50	日常生活の指導 (歯磨き・着替え・帰りの支度・自由遊び・帰りの会)					
	13：45	下 校					

小学部 2・3 組の日課表

時限	時間	月	火	水	木	金
	8:50	登 校 日常生活の指導 (荷物整理・着替え・係の仕事・朝の課題・自由遊び・朝の会)				
1	9:40	全校朝会	リズム運動	合同 (体育／音楽)		
	10:10	日常生活の指導 (自由遊び)				
2	10:30	学部朝会	生活／音楽／図工／体育			
	11:10	日常生活の指導 (自由遊び)				
	11:20	生活／音楽／図工／体育				
3	12:00	給 食				
	12:50	日常生活の指導	日常生活の指導 (歯磨き・清掃・自由遊び)			日常生活の指導
4	13:45	下 校	13:55～	おべんきょうタイム		下 校
	14:30		日常生活の指導 (着替え・帰りの支度・帰りの会)			
	15:00		下 校			

平成30年度 小学部 指導形態

指導形態	各教科等を含めた指導						教科別の指導			領域別の指導			指導系統		
	日常生活の指導		生活単元学習		遊びの指導	国語・算数	音楽	図画工作	体育	特別活動	自立活動	道徳			
授業名	・あさのこい ・やすみじかん ・きょうしゅく ・かえりのこい		せいかつ	ごうどう せいゆつ	あそび	おべんきょう たいむ	おんがく	ごうどう おんがく	すこう	たいいく	リズムうんどう ごうどうたいいく	<各行事> ・運動会 ・学習発表会 ・始業式・終業式 ・入学式・卒業式 ・修了式・発願決定	おべんきょう たいむ ※教育活動全般 を通して行う	※教育活動全般 を通して行う	授業名
学習集団	学級	学部	学級	学部	1組 2組	課題別 グループ 1組 (2グループ) 2・3組 (4グループ)	学級	学部	学級	学級	学部	個別	個別 学級 学部	学習集団	
主な内容	登校 持物整理 着替え 係の仕事 遊び 排班 朝の会 食事 歯磨き 掃除 帰りの会 下校	自由遊び	学級づくり 課外活動 制作活動 親睦活動 宿泊学習 校外学習 修学旅行 朝小交流会 お楽しみ会 運動会 学習発表会 学習発表会	生活班 体育前遊び 朝の遊び トランプ 遠足 朝小交流会 お楽しみ会 運動会 学習発表会 卒業式	読も遊び 読書遊び 砂遊び スタンプ遊び 図鑑遊び 劇遊び ボール遊び スライム遊び 泡遊び	絵本の読み 聞かせ 発声・発話 文字の読み書き 音読 ミニシアター なまかなげ なまかめ 順守数 集合数 時計 金銭 カレンダー	音楽遊び リズム遊び 歌謡 身体表現 楽器演奏 鑑賞	音楽遊び リズム遊び 歌謡 身体表現 楽器演奏 鑑賞	ぬたくり 粘土等の遊玩遊び スタンプ 描画 なぞり 絵の具、景色 はさみ、のり、テ ープ等の道具を使 用する工作 ・ポスター作り ・おもちゃ作り ・フィギュア作り	準備本課 マラソン 固定道具 での運動 マット運動 跳く箱 ボール運動 鉄棒 ゲーム	リズム運動 走る バレーン ボール運動 キック運動 体力テスト フール ダンス リレー	生活目標の発表 季節行事の話 学校・学部行事の話 ダンス・歌 ゲーム等の レクリエーション 学級の取組の組み 発表 学校行事の発表 健康診断や発育測 定時の保健講話	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き ミニシアター	あいさつ 返事 規則正しい 生活 健康と安全 善悪の判断 思いやりやの心 きまりや約束	主な内容

2 大事にしていること

体験中心の教育活動

知的障害のある児童の学習上の特性として、学習によって得た知識や技能を、他の授業場面や実際の生活の場に活かしたり応用したりすることの苦手さがある。そのため、小学部では、児童の生活を基盤とし、生活に結びついた具体的な学習活動や体験的な学習活動を多く取り入れることで、学んだことを家庭や地域の生活の場に活かしていくことを大切にしている。

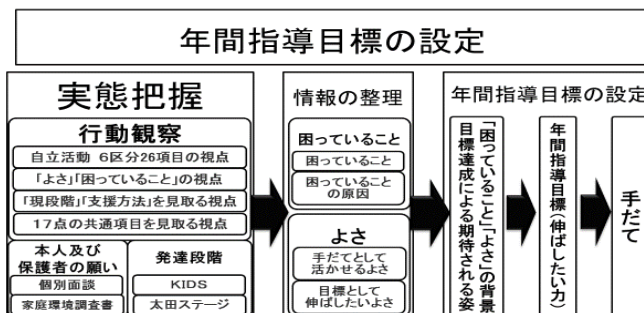
例えば、「せいかつ」の授業では、栽培活動、調理活動、買い物活動、家事活動、やり取り活動等、実際の生活に結びつく体験的な学習や、生活に活かしていく校外学習を多く取り入れている。

また、「おべんきょうタイム」の授業（右図）では、「国語」「算数」「自立活動」を内容として取り扱うが、ねらいは学んだことを日常生活に活かしていくことである。状況に応じて、買い物学習や調理学習等の体験的な活動も、随時実施している。

授業名…………おぺんきょうタイム
指導形態……各教科等を合わせた指導
学習内容……「国語」「算数」「自立活動」
ねらい…………①日常生活に必要な言語を理解したり、コミュニケーション
手段を身につけて伝えたりすることができる。
②日常生活に必要な数量、図形、金銭、時間等の算数を
理解したり、操作したりすることができる。
③日常生活や学習上の困難を改善・克服するために必要
な知識、技能、態度及び習慣を身につけることができる。

一人一人に応じた指導

小学部では、一人一人の実態を多角的に把握し、把握した実態を「よさ」と「困っていること」の2点で整理し、根拠の明確な指導目標を設定している。各指導場面では、個別に設定した指導目標を基に、一人一人に応じた指導を行うことを大切にしている。



中学部について

1 教育課程について

学部教育目標

小学部または小学校における教育の基礎の上に、集団の中で生徒一人一人に応じた適切な教育を行い、心身の調和的発達を促し、豊かな体験を重ねる中で、自分の力を発揮し、生活を自らの力で広げようとする生徒の育成を図る。

それぞれの学習の場で6年間の学習を積み重ねてきた生徒は、中学部に進学してくる頃には、興味や関心にひろがりが見られ、自分の考えや意思を表現する様子が多くみられるようになってくる。さらに、様々な集団での活動も経験してきていることを考えると、中学部にあたるこの時期は、興味や関心を自らが広げ、意欲的に物事に取り組む姿が多く期待できる時期であると考え。

中学部の生活では、特定の先生や友だちだけでなく、学級や学部といった集団の中でも徐々に自分の力を発揮することが期待できる。また、学校の中だけでなく、学校外でも豊かな体験を多く重ねることで、さらなる興味や関心が芽生え、より物事に積極的に取り組める態度の礎を育むことも期待できる。集団の中で自分の力を発揮すること、また学部・学級の仲間と豊かな体験活動を通して、自分の生活を大きく広げることが中学部での教育の基本になると考える。

日課

家事活動、生活(生活単元学習)、作業(作業学習)等、教科等を合わせた指導を軸に授業を展開している。

時限	時間	月	火	水	木	金
	8:50 9:20			登校 身辺処理・家事 朝の会 移動・準備		
1	9:30 9:40	そうじ 全校朝会	マラソン	サーキット	サーキット	マラソン
	10:15 10:20			休み時間(移動・準備)		
2		作業	がんばりタイム	がんばりタイム	がんばりタイム	作業
3			生活	生活	生活	
	12:00			給食		
				身辺処理・家事・昼休み(～13:15 移動・準備)		
4	13:15 13:50 14:05 14:15	がんばりタイム 身辺処理・家事 帰りの会	体育	中学部タイム	音楽	委員会 身辺処理・家事 帰りの会
	14:20 15:15 15:20	下校		そうじ 身辺処理・家事 休み時間 帰りの会 下校		下校

働こうの気持ちを育てるキャリア教育



本校中学部では中心的な学習「生活単元学習」において、働くことに関する学習を単元の一つとして、あるいは年間の取り組みに関連付けながら行っている。1年生では感謝称賛される経験を重ねられるように職業模擬体験を、2年生では仕事の仕組みや業種、働く喜びを知ることができるように就業体験を、3年生では働く生活を実際的に体験することで達成感と給与を得られるように校内実習に取り組んでいる。このように各学年段階で育てたい勤労観、職業観を明確にし、系統立てて取り組むことで、働くことへの肯定的な考えをもつことができるようにしている。

仲間と楽しむ気持ちを育むキャリア教育



中学部3年生では、もらった給料を余暇の楽しみに使う学習場面が設定されている。校内実習での生徒たちの姿からも余暇の楽しみが働くことのモチベーションになっていた。卒業後の生活でも同じことが言えよう。そこで、中学部段階で余暇の拡充に繋がる系統的な取り組みを考えるに至った。1年生では、近隣の施設等に出て、公共交通機関、買い物、食事の経験を重ねる。2年生では仲間と行う余暇の楽しみやよさにたくさん触れる。3年生では行き先について自分たちで調べたり、計画立てたりする。今後も有効性を分析しながら継続して取り組んでいく。

高等部について

1 教育課程について

学部教育目標

中学部（校）までに身につけた力を基に、生徒一人一人の卒業後の家庭・職場・余暇の場における生活を見据え、個性を活かして社会の中で主体的に生活できる生徒を育成する。

社会に出る直前の段階にあたる高等部では、本校で独自に作成している生徒一人一人の「将来像（※）」を基に、生徒一人一人の将来を見据えた学習を行っている。具体的には、「将来像」に描かれている「家庭」「職場」「余暇の場」における生活を実現するために、中学校（中学部）までに身につけた力を基に高等部の三年間で身につけるべき力、伸ばす力は何かを考え、各授業で取り組むようにしている。また、その際、生徒一人一人の障害特性に着目し、その生徒の個人内差における「強み」「弱み」と、改善・克服を期待するのが難しい「配慮（すべき）事項」を確認したうえで、支援について検討するようにしている。そして、その結果として、一人一人の個性を活かし、社会の中で自分の力を最大限に発揮して主体的に生活できる生徒の育成を目指している。

※将来像…23 歳から 25 歳時点での本人が自分の力を最大限発揮して生き生きと生活している様子をまとめたもの。「家庭」「職場」「余暇の場」の3つの場について書かれている。

子どもの将来像

高等部 ○年 氏名 ○○ ○○

将来像（自己実現をしている生活を想定した、本人の23～25歳時の姿）		
家庭の場における将来像	職場における将来像	余暇に関する将来像
家族と同居し、もらっている給料は自分で管理している。家事（洗濯の取り込み、食事準備）は家族と分担して自分で毎日行っている。家族の役に立つという目的や、感謝し合う気持ちを感じることができるようになっている。	自宅から1時間圏内で、店舗のバックヤードか工場での軽作業に毎日フルタイムで従事している。手取りで10万円程度の収入がある。仕事は手早さを意識し、仕事上の悩みのある時は上司や同僚、家族や就労支援センターの支援を受け、前向きに取り組んでいる。	地元の友だちとメールなどでやりとりしながら計画を立て、出かけている。 地元のスイミングスクールに週数回母親と通いつける。マラソンは、エントリーしたい大会を自分で選び、仲間や家族と参加する。参加費は、自分で負担している。

図1 子どもの将来像（高等部）

日課表

本校高等部では、生活単元学習を「生活」と「グループ」の2つに分けて行っている。

「生活」は、学級単位で行われ、行事の取り組みを中心にしながら、主に生活技能の学習に取り組むものである。「グループ」は、個別の指導計画の目標や課題ごとに縦割りで集団を構成し、主に生活技能や余暇の学習に取り組むものである。

また、作業学習については、右の日課表に示されている「作業」と、前・後期に一定期間行われる「現場実習」がある。「作業」は、年間を通して行われるもので、「窯芸班」

「手工芸班」「農園芸班」の3班からなり、縦割りで班が構成されている。「現場実習」

は、前期（6月）に3週間、後期（10月～11月）に4週間行われるもので、個別の指導計画の目標ごとに縦割りの3班で構成されている。この現場実習期間のうち、1～2週間は校外で実習を行い、残りの2～3週間は校内での実習に取り組むことになっている。さらに現場実習期間の前後には、事前・事後学習の時間を設定している。

	月	火	水	木	金
1	全校朝会	体育	体育	体育	体育
2	生活	グループ	グループ	グループ	生活
3	生活	グループ	グループ	グループ	音楽
	給食・昼休み				
4	グループ	作業	作業	作業	委員会活動
5		作業	作業	作業	

図2 高等部日課表

2 大事にしていること

高等部では、「将来像」における3つの場がバランスよく充実して、初めて生徒一人一人の将来が豊かなものになると考えている。従って、授業においても、この3つの場の将来像を実現するための学習がバランスよく行われるように計画されており、それは図2の日課表の構成に具体化して示されている。

家庭の将来像の実現に必要な生活技能の学習は、主に「生活」や「グループ」の授業で行われる。余暇の場の将来像の実現に必要な余暇に関する学習は、主に「グループ」や「体育」「音楽」で行われる。そして、職場の将来像の実現に必要な働くための基礎となる力（挨拶、報告・相談、身だしなみや衛生面に対する意識、仕事を続ける体力、指示を理解し守る力など）に関する学習は、主に「作業」や「現場実習」、「体育（持久力向上のためのペースランニング）」「生活（進路に関する学習）」で行われる。つまり、午前中の最も集中しやすい時間帯に、「家庭」や「余暇の場」の将来像を実現するための学習に取り組んでおり、疲れの出る午後にあえて「職場」の将来像を実現するための学習に取り組んでいる。そして、そうすることで、生活技能や余暇に関する学習の充実を図るとともに、少ない時間の取り組みでも働くための力を高めることを実現し、結果として3つの場の将来像がバランスよく充実することを目指している。